

ウラジオストク滞在に関する報告について（2016年1月分）

1. 1月の行事等について

- 1日 新年
- 7日 クリスマス（ロシア正教、ユリウス暦より）
- 14日 旧正月（ユリウス暦より）
- 21日 賀詞交換会（在ウラジオストク日本総領事公邸）

2. ロシア語学校について

ロシア語学校の授業は先月に続き「文法」「会話」「ビデオ」「読解」「発音」の5科目で行われています。現在、私のクラスはアメリカ人2人、韓国人4人、中国人4人、日本人2人の計12人となっています。

また、引き続き個人授業を受講しており、週3回「文法」「読解」「手紙」「聞き取り」などの項目を重点的に学習しています。

昨年の11月以前は時間割が決まっており、よほどのことがない限りは時間割が変更されることはありませんでしたが、ルースキー島に引っ越して以降は大学のさまざまな学部との教室の兼ね合いから、毎週のように時間割が変更になります。そのため、異なった時間帯にさまざまな教室へ行くことができ、大学の校舎をより詳しく把握することができました。

3. ウラジオストクの状況について

・天候

ウラジオストクの1月は最も寒い時期と言われ、外の気温は氷点下が続き、特に風が強い日などは帽子や耳当てなどをしないと歩くことができません。ロシア人は帽子をかぶり、さらにコートについているフードもかぶります。私がたまに帽子を被らずにいると、知人などは「頭が病気になるよ」と注意してくれます。冬のロシアでは帽子をかぶっていないロシア人は見かけません。

また、日本のように融雪装置や除雪車で雪を処理するわけではありません。道に積もった雪は端にまずは集められます。その後、道の端に集まった雪や氷は氷点下の気温が続くため硬くなって溶けることがないので、除雪作業員達が歩道や道沿いの雪・氷を割ったり砕いたりした後にトラックの荷台などに乗せて運んでいきます。除雪の方法ひとつでも日本とはかなり違ってきます。ただ、除雪は積極的に行われているのですが、歩道には雪や氷が残り、滑ってしまうこともあるので、歩くときには注意が必要となります。

・街の様子

1月1日は新年ということもあり、街の広場では花火が上がったりしたそうで

す。旧暦の正月は1月14日になるのですが、1月1日は現代的な楽しみ方のようにです。そして、14日は伝統的な正月の迎え方をする人もおり、豊穰を願った料理を食べる家庭もあるそうです。街の至るところに飾られたクリスマスツリーや装飾は、1月に入ってから旧正月前後まではそのまま飾られていました。

4. 賀詞交換会について

1月21日（木）に在ウラジオストク日本国総領事公邸において賀詞交換会が行われました。ウラジオストク市に在住している日本人が招待され、総領事公邸において新年の挨拶を交わしました。現在のウラジオストクには100人前後の日本人がいると言われていています。また、そのうちの20人前後は留学生になります。普段から付き合いのある方やあまり関わりがない方もおられましたが、様々な人と交流ができたので大変有意義な会となりました。

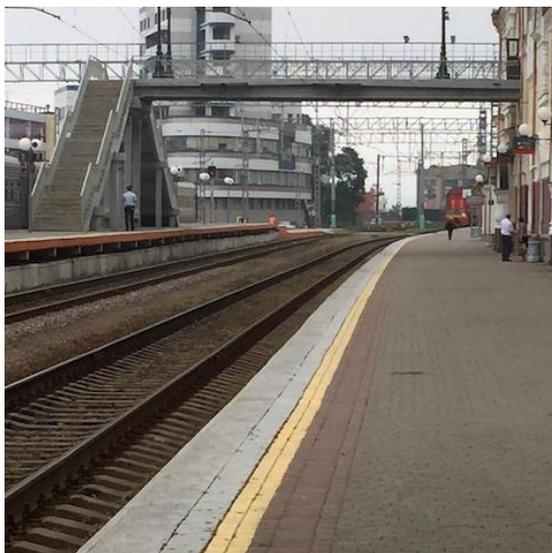
5. シベリア鉄道について（ウラジオストク市～ハバロフスク市）

ロシアと聞いて世界一長い鉄道である「シベリア鉄道」を想起される方も多いかと思います。そして、ここウラジオストク市にはシベリア鉄道の終着駅があることでも有名です。

シベリア鉄道は1850年代から計画され、その後、長い年月をかけて完成へと至ります。ウラジオストク駅は1893年にウラジオストク駅～ウスリースク駅間が開通したことに伴い開業しました。現在の駅舎自体は1912年に改築されたもので古代ロシアの宮殿をイメージしたものとのことです。



(写真①：駅舎と車両)



(写真②：駅構内)

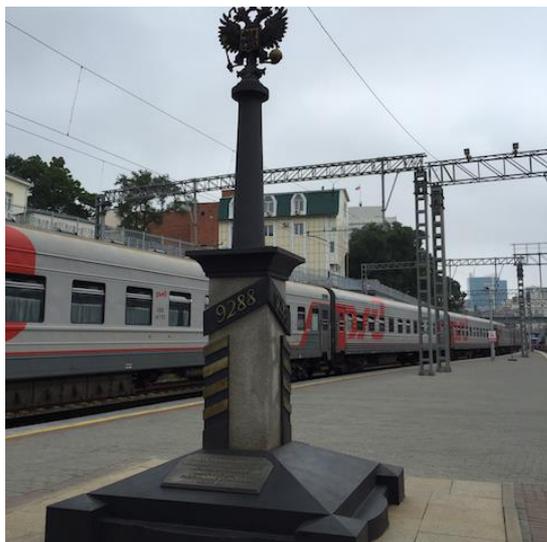
ウラジオストク駅は市の中心部にあり、アジア側からのシベリア鉄道の起点として日々多くの人々に利用されています。特に駅周辺では大きな荷物を抱えた旅行客をよく見かけます。また、駅構内やホームには自由に行き来できるので、観

光名所の一つとして観光客もたくさん見られます。そして、港とも直結しているため、船からコンテナが直接積み込まれ、それらの大量の貨物を積載した車両が運び出されていきます。

では、実際にシベリア鉄道を利用しての移動について紹介したいと思います。日本からも旅行会社などに頼めばチケットの手配などはしてもらえますと思いますが、現地で直接チケットを買う方法としては、大きく分けて①ロシアの旅行会社に頼む、②駅で直接購入、③インターネットで購入の3つになります。最近ではインターネットで購入することが多いそうです。

今回、私はウラジオストク～ハバロフスクまでの往復の切符を駅で直接購入しました。駅で直接チケットを購入するには、チケット売り場でパスポートを提示して行き先と希望の車両を告げます。車両は1等車、2等車、3等車、共通車両というような車両に分かれています。ちなみに日本のガイドブックなどには3等車までしか載っていません。私はチケットを買う時に「一番安い席」をお願いしたところ、「Общий вагон（共通車両）」という車両になりました。値段は大体900ルーブル（日本円では約1,500円）ほどです。

次に列車についてです。シベリア鉄道には目的地ごとに列車が分かれています。中には優等車両なるものも存在し、代表的なものとしてウラジオストク～モスクワをつなぐ「ロシア号」やウラジオストク～ハバロフスクを結ぶ「オケアン号」などは新しく、設備も整っています。ウラジオストクからモスクワまでは6泊7日かかりますが、今回はハバロフスク市まで片道約14時間の行程となりました。



(写真③ (左) : 駅構内のシベリア鉄道終着駅記念碑「モスクワから 9288km」)

(写真④ (右) : 駅構内の旧先頭車両)

続いて車両の中についてです。基本的に1つの車両にいくつか個室があり、室内には下と上に人が1人横になれるようなソファがついています。2等車はこの

個室に4人まで入ることができ、3等車になると廊下にさらに2つほど人が横になれるスペースがあります。1等車は設備が整った個室に2人まで利用することができるようです。3等車までは全席指定席となり、シーツなどの寝具も配られます。今回、私は共通車両を利用したので寝具などは配られず、さらに自由席となり1つの個室に座れるだけ座ることになりました。その結果、私が座った個室には6人が入り、全く横になれないまま、直角の椅子に座りながら14時間ほど揺られることになりました。

ウラジオストクを夕方17時頃に出発し、ハバロフスクには翌朝7時頃に着きました。その後、日中は観光し、街を見て回りましたが、ウラジオストクとはまた違った落ち着いた雰囲気でもとてもいい街でした。そして、夕方になりウラジオストク行きの列車に乗るために再び駅へ行き、復路は2等車に変更してもらい、とても快適にウラジオストクへと帰りました。このように、ウラジオストクから歴史的にも、またその長さでも有名なシベリア鉄道を使い他の都市へ行ってみるというのも観光のひとつの目玉と言えるのではないかと思います。



(写真⑤ (左) : 4等車、シーツなどはなし。自由席)



(写真⑥ (右) : 2等車、4人までの指定席)



(写真⑦ : 車両内廊下)